

第52号

2025年 3月31日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail: kouhou@koshinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680

神戸真生塾栄養士の取り組み

2024年を振り返って

栄養士 植原 美奈子

児童養護施設の栄養士は、日々の食事作りだけでなく、子どもたちの成長や自立を支える取り組みを行っています。この一年も「食」を通じて、子どもたちと多くの楽しい時間を共有することができました。今回はその一部をご紹介します。

☑みんなで運営カフェこっこ

8月20日、子どもたちを店員とお客さんに見立てた「カフェこっこ」を開催しました。子どもたちは、チケットや看板・メニュー表をカラフルに作成するなど自分たちで準備を進めました。カフェドリンクや、栄養士が作った焼き菓

☑手作りバースデーケーキ

誕生日を迎える子どもと一緒にケーキのデザインを考え、栄養士が手作りました。好きなキャラクターのケーキやリクエストに応じた食事を用意し、子どもたちに

とって思い出に残る温かな誕生日会となることを目指しました。

☑自由な夕食スタイル

10月18日、夕食をお弁当形式で提供し、「好きな場所で食べてね」という企画を実施しました。普段はいつも決まった部屋・いつものテーブルで食事をする子どもたちですが、この日は「ここで食べたら楽しいかな」と、自分で考えて自分自身がワクワクするような居場所を選びました。夜に外の風を感じながら食事をするなど、非常を楽しみました。同じ食事でも自分好みの環境にしてみるといつもより美味しく感じたことと思います。「自分で自分の機嫌をとる」経験は、とても有意義であるように感じました。

☑食の自立支援

将来に役立つスキルを身につけるため、栄養士と一緒に買い物したりスーパー毎の価格比較を体験しました。さらに、調達した食材の簡単な調理方法や生活知識も併せて学びました。自信を持って退所後の生活を始められるよう、実践的な支援を意識しています。

以上のような様々な取り組みを通じて、子どもたちが自信を持ち、成長するためのサポートを行っています。



社会福祉法人

題字 齊藤 敬好

神戸真生塾

児童養護施設 神戸真生塾

フットサル大会

11月23日。第30回神戸市児童福祉施設フットサル大会に神戸真生塾から10名の小中学生が参加しました。

大会本番に向けて、時間や場所が限られる中、練習に取り組みました。中小企業家同友会にて知り合った廣本氏にもご参加頂き、実践的なスキルに加え、礼儀作法、フェアプレーの精神、真面目に取り組むことの大切さを子ども達にご指導頂きました。

そんな中、様々なことから子ども達の不満や葛藤が聞こえてきました。勝ちを欲している子の中には、年齢が低く身体の小さい子が出場するのを良く思わない子もいます。真面目に練習しない子を真面目な子は叱ります。時には喧嘩になり、雰囲気の良い場面も度々見られました。私は正直、このチームは纏まるのかと不安に思いながら大会本番を迎えた事をよく覚えて

います。

しかし、私の心配は杞憂に終わりました。チームの為に嫌な役割を自ら受け入れる子、試合に出場できなくても文句ひとつ言わずに見守る子、練習内で培ってきた様々なものを糧に、大会本番では一つの「チーム」として、良いプレーには称賛を、改善すべきプレーには意見を出し合える関係になっていました。結果は惨敗でしたが、子ども達の成長を感じることができ、勝敗以上に大切なものを見ることができました。

いつもお世話になっている廣本氏含め、沢山の方々に支えられながら、これからもフットサ



ル練習は続きます。練習を通して、子ども達の身体だけでなく心も育ってくれることを期待しています。

児童指導員 鈴木 一也



クリスマス礼拝

初めに、イエスキリストのご誕生をお祝いするクリスマスのひと時を、お越しいただいたお客様と共に祝いました。心を心より感謝しております。

12月25日、クリスマス礼拝、祝会を開催しました。

今回の祝会では新たな試みを多数取り入れ、子どもたちがより一層、会を楽しめるよう様々な工夫を凝らしました。

クリスマス聖誕劇は朗読形式で行い、有志が集まった子どもたちがそれぞれセリフを朗読しました。背景には、場面に合わせたイラストを描いてもらい、プロジェクターで映し出しました。幼児から高校生まで、幅広い年齢の子どもたちが描いてくれたイラストは可愛らしいものから、「上手!」と声の上がる様なイラストまで様々でした。プロジェクターの操作も、中高生が行いすべてを子どもたちで作り上げました。

舞台上でスポットライトを浴びるという状況に緊張を見せる子どもたちでしたが、しっかりとそれぞれの役を演じ切り、素敵な聖誕劇が完成しました。

お祝い会では、歌を歌いたいゲームを開催したい！と、やる気の溢れた子どもたちがこぞって舞台上に乗り出してくれました。人前に出ることは緊張するはずだったあの子どもが、まともに音を出すことも苦労していたあの子どもが、と子どもたちそれぞれ成長を目の当たりにし、思わず涙ぐむ場面も。

乳児院の子どもたちによる可愛らしいダンスにも癒されました。

寒い冬の夜にそんなあたたかいひと時を過ごせたことを嬉しく思います。

最後になりましたが、祝会にご参加頂きました神戸教員合唱団の皆様、会場にお越し頂きました方々、本当にありがとうございました。来年度も皆様と共に素敵なクリスマスを迎えられますように。

保育士 森田 結衣



乳児院 真生乳児院

お買いもの

子どもたちは買いものや散歩など出掛けることが大好きです。この日は、HくんとAちゃんと買いものに出掛けました。ライフにHくんのアルバムと子どもたちのジュースを買いに行きました。道中では少し緊張も見られましたが、ライフに着くとアルバムのキャラクターをHくんが自分で選び、ジュースも2人で選んでくれました。帰りは、パトカーや救急車が走っているのを見て「パトカーと救急車見れたね」と嬉しそうに話してくれました。

子どもたちと一緒に買いものに行ける日が多くあるわけでは



保育士 黄瀬 香菜絵

ないため、養育者が選んだものになりがちですが、1歳以上の子どもたちになつてくると、一緒に買いものに行き子どもたち自身で選ぶということも、生活の中の1つの経験として大切だと改めて感じました。その限られた貴重な時間を大切にしながら、日々関わって行きたいと思いました。

楽しく褒めよう！

ある日、子どもたちとクッキー作りをしました。

初めてのことでクッキーの型抜きを見て、口に入れて食べようとしたり、「これは何？」と不思議そうにしたりしていました。生地作りでは、年長児は緊張した面持ちでずっと牛乳を入れ、卵を割ります。年少児は豪快に勢いよく粉を入れて笑っていました。真剣に生地を捏ねて、自分で選んだ型抜きで型を抜いてすぐくきらきとした顔で「できた！」「これねこだよ！」と嬉しそうに見ていました。焼き上がり出来立てのクッキーを食べて「おいしい」と言っていたくさん食べました。「〇〇姉ちゃんにもあげる」と言って自分たちでラッピングをして職員にもプレゼント。「おいしい」「うれしい」「ありがとう」と沢山ほめてもらい子どもたちは嬉しそうに照れていました。

私は「たくさん



褒める」ことを入職すぐから目標にしています。自分で服を脱ごうとした、お箸を使おうとした、出来ていなくても挑戦したこと共に喜び褒めて、挑戦する心と好奇心をたくさん持つてほしいと思います。私の趣味であるおかし作りを通して、楽しく食育するだけでなく大人からたくさん褒めてもらいたくさん自信をつけて楽しく日々成長していける環境を作っていきたいと思っています。

児童指導員 渡邊 明日生



退所する

こどもから

I・A

さん

「16年間、ありがとうございます
ました」

私は、物心ついた時から、神戸真生塾という児童養護施設にいました。2歳から16年間、乳児院・児童養護施設で生活し、たくさんさんの経験をしました。

施設で生活し大変だったことは、私自身が思春期を迎えた時の職員との関わり方です。職員と話したくなく、話をしても言葉がきつくなってしまうたりしていました。ですが、そんな時でも、職員のお兄さん・お姉さんは、私が話せる時まで待ってくれたり、話した時もしっかりと聞いてくれたりしました。職員のお兄さん・お姉さんには、とても感謝しています。

小学校の頃、私はそんな職員を見て、私も保育士になりたい

と思うようになりました。高校は、幼児教育コースのある学校を選び、高校卒業後は、短期大学へ進学し、子どもたちのことについて学びながら保育士を目指そうと思っています。

私は、真生塾で生活できたことを、とても嬉しく思います。たくさん迷惑をかけてきました。私の夢を応援し、助けてくれた職員の人々が大好きです。ありがとうございます！！

K・K

さん

私は、小さい頃から、たくさんさんの習い事をしてきました。その中で、一番熱中したのが、バレーボールです。本格的にクラブチームに入ったのは小学5年生からです。小学校1年生から、神戸市の児童養護施設連盟のバレーボール大会に出ています。その時は、勝ちたい！というよりも楽しいのが強かった。年輪が上がるにつれて、周りの子も優勝を目指すようになり、本格的にバレーボールを習

い始めることにしました。初めは予選突破も出来なくて、悔しい思いをたくさんしました。優勝するまでは、とても長くきつい練習もしましたが、小学校6年生の時に初めて児童養護施設連盟のバレーボール大会で優勝することができました。時間はすごくかかりましたが、みんな力を合わせて優勝できたことが、私の施設生活の中の1番の思い出です。

S・R

さん

僕は、3歳から神戸真生塾で生活しています。施設の楽しい思い出は、様々な招待行事や中高生会でスポーツチャに行っただけです。頑張った事は、人との関わりです。対人関係には苦労したことが多くありました。今までの学校生活で楽しかった思い出は、神戸生田中学校では、1年生の時の野外活動です。ア

ンモナイトの化石をみたり、標本を作りました。青陽灘高等支援学校では、修学旅行でハウステンボスやマリンワールド海の

中道、門司港に行ったことが一番楽しかった思い出です。学校生活も、楽しいことばかりではなく、しんどいことも多くありました。高校では、実習が連続でありとても疲れました。距離も離れている実習先も多く、移動も大変でした。しかし、高校生活で最も勉強になった事も、実習先で学んだことです。相手を不快にさせずに自分の言いたいことを伝える方法などを教えてもらい、とても勉強になりました。僕は、4月から実習でお世話になった、特例子会社富士電機フロンティアで働くことになりました。もう半年近く実習させてもらっていますが、働き出してからの目標として、今職場で教えてくれる先輩たち以上に仕事が出来ようになりたいと考えています。



S・A

さん

私が神戸真生塾に来てから3年の月日が流れました。来た当時のことを思い出すと、とても懐かしく感じます。その頃は施設での生活に慣れるため、同じ部屋の子達や職員の方々が話しかけてくれて、とても暖かく迎え入れてもらいました。そのおかげで、私はこの生活に慣れ、また日々の出来事や悩みを気軽に話すことができる関係にもなりました。私は安心することができ、居場所ができたことにとっても感謝しています。ここでもか経験できないようなことをすることができ、例えば企業訪問で出会った人たちと交流することができました。その他にも刺激があつてとても良い思い出がたくさんあります。

高校を卒業した後は、大学に進学し、やりたい事に向かって進んでいきたいと思っています。これまで周りの方達に多く支えてもらったように、これからは自分が支える立場になって行きます。3年間本当にありがとうございました。

M・K さん

私は高校2年生の時からお世話になりました。ここに来るまでは、神戸真生塾を含む児童養護施設を知らなかった。なので、神戸真生塾に入ることが決まった時は、生活に馴染めるか不安でした。

入所した時は緊張して、同じ部屋の児童と話することが出来なかったけれど、日々暮らしていくうちに同じ部屋の児童がどのような人達か分かり、話せるようになりました。職員さんとも最初は緊張して話すのに勇気が必要でした。けれども、話していくうちに、私と良い関係を築きたいと分かり、段々と話しやすくなりました。

また、進路で困った時も、一緒に考え時にアドバイスをしてくれました。おかげで進路も無事に決まりました。

他にも、職員さんに感謝することはとてもあります。

神戸真生塾でお世話になった児童や職員さん、今までありがとうございました。



ありがとうございました

敬称略・五十音順

(二〇二四年七月一日〜二〇二四年十二月三十一日)

寄贈

- 赤木まどか
- 大杜貴子
- 門脇明彦
- (株)ブロンズ新社
- (株)美管理
- 川北敦子
- 神戸ポルトワイズメンズクラブ
- 小林慶子
- 神果神戸青果(株)
- 島田千里
- 社協
- チュチュアンナ
- 照喜名みくに
- 外山陽子
- ニガキ
- 日本ベビーフード協議会
- 馬場さん
- P & G ジャパン合同会社
- フィブインタラ
- ロウジステイクス(株)
- 樋口智文
- People(株)コーポレート
- 藤尾はるみ
- 明治

広報チーム 川端

寄付金

- 八木奈津美
- 吉田真弓
- アマゾンジャパン合同会社
- 安西真由美
- 石井幼稚園
- 伊藤千景
- 上杉徹
- 大江慎一
- 大垣友行
- 岡本美智子
- 沖野世津子
- 家庭養護促進協会
- 梶田一聖
- 数田紀久子
- 川勝浩
- 神戸教員合唱団
- 神戸教会いずみ幼稚園
- 神戸真生塾児童養護職員
- 有志一同
- 子供の家職員一同
- 清水美香
- 真生さらさら保育園職員一同
- 真生乳児院職員一同
- 児童家庭センター
- 住本義則・淳子

○日本キリスト教会

西宮中央教会

- 高森紀子
- 時岡三恵
- 友藤喜久子
- 中村悦子
- 中村淳子
- 名古屋高等学校
- 認定こども園頌栄保育園
- 橋本美記子
- 鼻崎孝
- 濱啓子
- 濱田栄二・理恵
- 林りえ
- 廣瀬加恵
- 福田加奈
- 藤井秀彦
- 本城智子
- 宮永公子
- 民谷清
- 森田順
- 有限会社カワタリ電設
- 令和の寅さん
- 綿谷栄子
- 渡邊智明



幼保連携型認定こども園

真生きらきら保育園

たすけあい

2024年は、1月に能登半島地震が起こり、災害がいつ起こるかわからないこと、日頃の備えがいかに重要であるか、そして、普段通りに生活できることがどれほど幸せなことであるかを実感しました。9月には豪雨災害もあり、本当に被災された皆様の一日も早い復旧と復興を願います。また、阪神淡路大震災から30年となります。1月17日は毎年、山の手小学校まで



避難訓練を実施しています。幼児組のお友だちが小さい組の子どもと手を繋いで歩きます。途中は登り坂なので、大きい子が小さい子の歩調に合わせてようとする姿も見られます。震災を経験した神戸で育つ子どもたちです。共に助け合う心が育ってほしいと願います。

12月は、幼児組の子どもたちが、「山手さくら苑」のお年寄りの方と交流する機会があり、クリスマスの歌をプレゼントしました。年長児の「きよしこの夜」の歌を聴いていたお年寄りの方が涙するのを目にして、こちらも感動する場面がありました。子どもたちの澄んだ声がその方の心に届いたのだと思います。お年寄りの方に「子どもが大好きや!」「来てくれてありがとう!」と言われ、子どもたちは恥ずかしそうにしていますが、とてもうれしそうでした。年末の心がほっとするひと時でした。

橋本 美記代

さくらんぼぐみ(0歳児)

あつという間に過ぎた一年を振り返り、年の瀬を感じる今日この頃。寒さも一段と厳しくなりましたが、子どもたちは大きく体調を崩すことなく、元気に過ごすことができました。12月は園内がクリスマス一色になり、子どもたちも日々の保育の中で、絵本や音楽、制作遊びなどを通し、クリスマスに親しみを感じていた様子です。お部屋の中では毎日クリスマスの歌を聴きながら、踊ったり楽器を鳴らしたりして、可愛らしい姿を見せてくれていました。

0歳児で入園した子どもたちは、皆お誕生日を迎え、ハイハイから歩けるようになり、喃語から物の名前が言えるようになって、お友だちにも興味深々で相手になろうとしています。子どもたちの「なにかな?」「あそびたいな!」の気持ちを受けて止めて、お子様の健やかな成長のお手伝いをさせていただきながら、子どもたちの笑顔がたくさん見られるような保育を行っていききたいと思います。

請川 まり子

サンタブーツ作り(さくらんぼ組)



指先あそび



めろんぐみ(5歳児)

クリスマス礼拝では、自分たちで役を決めて、セリフを覚えたり、たくさんさんの讃美歌を歌ったりしながら「聖誕劇」に取り組みしました。「めろんさんになったら、聖誕劇ができる。」と子どもたちにとっては、楽しみな行事のひとつです。

当日、保護者の方と別れ、部屋まで笑顔で走ってくる子どもたちを見てホッとしましたものの「緊張して固まってしまっかな?」等、心配もしましたが、本番に強い子どもたちはたくさんのお家の方に見守られ、普段

クリスマスケーキ作り(め3ん組)



スポンジにクリームをぬったよ!



通りの姿を見せてくれました。運動会、聖誕劇と大きな行事を通して「みんなで作って上げていく」という経験が、各々の自信につながってきているようです。

今月のクッキングはクリスマスケーキを作りました。「クリスマスツリーにしたで!」「サンタがいちご持ってるみたい!」と楽しく作りました。可愛いパティシエのようでした。

保育園での生活も残り3カ月、就学に向けて様々な活動を楽しんでいきます。

川内野 裕子

自立援助ホーム 子供の家



自立援助ホーム「子供の家」が平成24年3月に開所してから、退所生が140名を超えました。これまでを思い返すと、多くのことを子どもたちから教わったことを改めて実感しています。そのなかでも、「表現することの難しさ」と大切さを教わりました。特に言葉で表現することの難しさを感じます。当たり前？の「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」が自然と言えることの重みを感じます。

彼らは時に、間違った方法や言葉で、心の奥の方にある見えにくい思いや葛藤、自分の思いや本音を力いっぱいぶつけてくることがあります。けれども、これまで自分の心の内を吐き出すこともなかった彼らですが、生活を共にするなかで、感情を表出できるようになりました。みんな「聞いて欲しい」「自分だけを見て欲しい」「認めて欲しい」、ただただ「甘えたい」だけだったのです。また、ぼつりぼつりと話しはじめるようになり、少しずつ心を開き、前進、成長する姿があり、ちいさな実を結ぶようになりました。彼らが全身で表現した言葉や表情には彼らの言葉にならない思いがいっぱい詰まっています。「本音で話ができる関係の大切さ」を、今改めて感じています。

指導員 岡本 紀江



子どものつぶやき

毎月ボランティアで遊んでくださっている女性が妊娠している事を知り、「赤ちゃん、ずっとお腹にいれて持ち運んでいるってことは『宝物やな』とMちゃんが言ったそうです。とても喜んでくださっていました。素敵な表現だね。」 (小3)

寝る前に、一緒にストレッチをしているYちゃん、「お姉ちゃん、ストレッチしたら、怖い夢を見ずにぐっすり眠れたよ。」と言ってくれました。毎日、楽しい夢を見てぐっすり眠ってね。」 (小2)

メレンゲ作りをしている時にRくんが「おでんでんでんって何？」とお部屋で作っている物と言うので「それメレンゲやん」と伝えました。メレンゲとおでんでんでん：似てるかな？」 (小2)

「お姉ちゃん、プートがないジャンパーがほしいねん…」プートじゃないくてフードだよー」 (年長)

テレビニュースで海外のハリケーンについての番組を見ていたHちゃんに、ハリケーンって知ってる？と聞いてみると「うん、USJのやる？」と自身満々に。USJではなく姫センのアトラクションだよ。でもね、ハリケーンは乗り物でもないんだよ。」 (小6)

予防接種と頭を診察していただく為、クリニックに通院することとなり、Mくん「頭診てもらうのと注射してもらおうね」と声を掛けると、「分かった頭に注射するんやな」と。頭には打たないよ！かっこよく泣かずに注射することができました。」 (年長)

珍しい色の鳩を見つけて目をつぶって何かを願っていました。聞いてみると「この鳩は願いを叶えてくれるんやで」ととても可愛らしく教えてくれました。」 (小1)





子育てでの
困りごとや
悩みごと...
そんなときは

匿名OK
相談無料

子育てホッとライン

078-341-6493

平日休日問わず9:00~18:00
緊急の場合は夜間もつながります

話を聞いて
くれるんだ

スツキリ
できたかも

なんとか
やってみるか





Instagram



ホームページ



Facebook



神戸真生塾子ども家庭支援センター

ロータリー子どもの家

保護的・補償的体験から

みなさん、ACEsという言葉をご存じでしょうか。ACEsとは、小児逆境体験 (Adverse Childhood Experiences) と呼ばれるもので、18歳までの悲しい体験やしんどい経験によって、将来望ましくない行動をとる確率が上がるといえるものです。また、病気のリスクが上がったり、精神疾患のリスクが高くなるとの研究結果があります。それだけを聞くとACEsを体験してしまったらもうどうしようもないと感じてしまうかもしれませんが、PACEsというものもあります。PACEsとは、保護的・補償的体験 (Protective and Compensatory Experiences) と訳されACEsを和らげるポジティブな小児期体験 (18歳まで) を意味します。その要素には、次の10個があげられます。

- ① 親または養育者からの無条件の愛
- ② 親友がいること
- ③ コミュニティーでのボランティア活動
- ④ 社会集団の一員であること
- ⑤ 家族以外の大人からのサポートを受けられること
- ⑥ 十分な食料のある生活で安全な家で暮らすこと
- ⑦ 学ぶための資源と機会をもっていること
- ⑧ 夢中になれる趣味をもっていること
- ⑨ 団体スポーツの一員であるか、定期的に体を動かしていること
- ⑩ 規則正しい日課と公正で一貫性のある

ルールをもつ家族の一員であること
皆さんは当てはまるものがいくつかあったでしょうか。

当センターは地域の子どもや子育て家庭の支援を行っています。地域で生活する子どもたちにもできるだけPACEsを体験していただくようなプログラムも展開しています。その一つに、株式会社チャーム・ケア・コーポレーション様との共催で実施している「チャームカフェ」があります。高齢者施設に子どもたちとお邪魔して、入居者の方々に子どもたちの手作りおやつを提供するカフェです。高齢者とのふれあい、お仕事体験、たくさん大人の褒められる時間を通して子どもたちは生き生きと充実した時間を過ごしています。高齢者の方々もいつもはあまり食べない方が完食されたり、泣いて喜ばれる方もおられます。このプログラムはPACEsの③④⑤の要素になります。毎回、スクールソーシャルワーカーや児童精神科医、学校の先生などのたくさんの方のボランティアに見守られながら、人の役に立ち、活躍し、認められる体験を積み重ねています。これからも地域の子どもたちにより多くのPACEsを提供していきたいと思っています。

久山 啓



(参考資料「小児期の逆境体験と保護的体験」ジェニファー・ヘイズ・グレルモード、アマンダ・シェフィールド・モリス著 明石書店)

神戸真生塾苦情処理委員

苦情受付担当者 金岡 美衣 (子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家 相談支援員)

川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)

山口 芽久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)

有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家 主任指導員)

苦情解決責任者 上杉 敏 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)

敷田 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)

橋本 美記代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)

秋本 真一 (神戸市立自立援助ホーム子供の家 施設長)

第三者委員 岡部 正嗣 (当法人監事)

中村 悦子 (中央区山手地区民生委員児童委員)

苦情受付件数 令和6年8月から12月まで 0 件

編集後記

今回も皆様方に広報誌「愛」をお届けできました事を嬉しく思います。日々様々な姿を見せてくれる子どもたちの心に寄り添い、今後もしも子どもたちの成長や取り組みを広報誌を通じてお伝えしていけるよう励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、今回も広報誌を発刊するにあたりご協力いただきました方々、また、日頃よりご支援いただいているすべての皆様に感謝を申し上げます。

原田 満香